

2021 年度入試状況分析【国公立大】

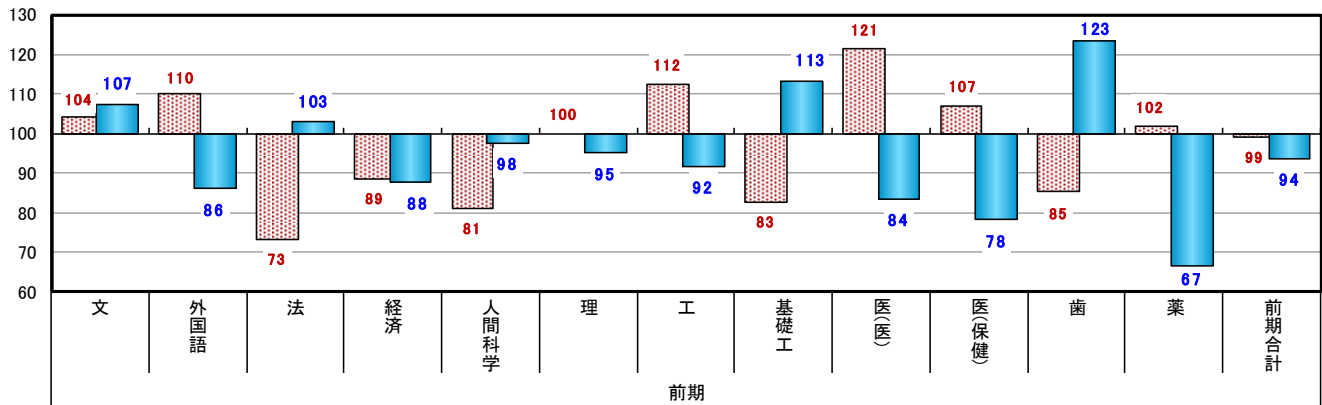
大阪大：大学全体では3年連続減少、増加は4学部のみ

前期：-471人

※前年度の志願者数を100とする指数

■2020年度/2019年度

■2021年度/2020年度



入試変更点

2段階選抜新規実施：人間科学<前>…約2.4倍で実施
 第1段階選抜基準変更：薬<前>…約4倍(通過予定人数：260人)→約2.5倍(通過予定人数：163人)
 共通テスト：工<前>…国<150>+歴公<50>+数2<50>+理2<50>+外<50>=総点<350>
 →国<75>+歴公<50>+数2<75>+理2<50>+外<50>=総点<300>
 個別試験：工<前>…数<250>+理2<250>+外<150>=総点<650>→数<250>+理2<250>+外<200>=総点<700>
 医(医)<前>…面(1回のみ)
 →面(複数の面接官による評価を参考にして場合によっては複数回行う)
 歯<前>…数<200>+理2<200>+外<200>+面<200>=総点<800>
 →数<300>+理2<300>+外<300>+面<300>=総点<1,200>
 薬<前>…数+理2+外→数+理2+外+論+面 ※論文、面接を追加

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期のみの募集で471人(94)のやや減少で3年連続減少。増加したのは4学部のみで、増減が目立ったのは歯(123)が大幅増加、基礎工(113)が増加。一方で、薬(67)、医(保健)(78)、医(医)(84)が大幅減少、外国語(86)、経済(88)、工(92)が減少。

<前期日程>

- 文(107)は、やや増加で、2年連続増加。
- 外国語(86)は、コロナ禍の影響も加わった系統への低い人気と前年度増加の反動で減少。専攻別では、25専攻中で増加は7専攻のみ。(外国語/モンゴル語)(49)が半減以下、(外国語/インドネシア語)(55)、(外国語/フィリピン語)(55)、(外国語/フランス語)(67)の3専攻が減少率30%を上回る大幅減少。一方で、はっきりと増加したのは、(外国語/中国語)(110)、(外国語/ポルトガル語)(108)の2専攻のみ。
- 法(103)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。学科別では、(法)(106)は前年度大幅増加の反動でやや増加。一方で、(国際公共政策)(96)はやや減少で前年度大幅減少に続いて2年連続減少。
- 経済(88)は、系統への人気の低下もあり、2年連続で減少。
- 人間科学(98)は、微減だが3年連続減少。志願者数は247人で、募集人員が115人になった2017年度以降では最少。
- 理(95)は、やや減少。志願倍率は5年連続で3倍を下回った。学科・コース別では、(生物科学/生命理)(139)、(生物科学/生物科学)(130)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で(数学)(81)は2年連続増加の反動で、(物理)(85)は3年連続増加の反動でいずれも大幅減少。
- 工(92)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、前年度は全ての学科が増加したが、一転して5学科全てが減少。(電子情報工)(86)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、他の4学科もいずれも前年度増加の反動で減少。
- 基礎工(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、前年度は全ての学科が減少したが、一転して4学科全てが増加し、工とは対照的。特に、系統への人気が高い(情報)(119)、電子物理学(118)がいずれも大幅増加。
- 医(医)(84)は、前年度大幅増加の反動と関西の難関大医学部医学科志望者の京大・医への強気な出願の影響で大幅減少。志願倍率は2.9倍→2.5倍にダウンしたが、過去5年間では2番目の高倍率で厳しい入試は継続。
- 医(保健)(78)は、前年度3年ぶりの増加から大幅減少。志願倍率は再び2倍を下回った。専攻別では、(保健/検査技術科学)(66)、(保健/放射線技術科学)(73)はいずれも大幅減少、(保健/看護)(91)は減少。
- 歯(123)は、2年連続減少の反動で大幅増加。
- 薬(67)は、3年連続増加の反動と個別試験に小論文と面接を追加したことによる負担増から大幅減少。